

平成29年11月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成29年11月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月比で、売上高は16ポイント収益状況は2ポイント、景況感は10ポイントそれぞれ改善した。

前月比で比較すると売上高は26ポイント、収益状況は6ポイント改善したが、景況感には2ポイント悪化する結果となった。

業種別のD I値において、製造業における前年同月と比べると、材料の値上りから売価も上昇傾向にあり、売上高は15ポイント増加し、景況感は一般機器業界が好調で製造業として20ポイント改善した。しかしながら収益状況は5ポイント悪化とされ、原材料等の価格上昇を売価に転嫁しきれていない状況を顕しているものと考えられる。

一方で、非製造業においてはサービス業が秋の行楽シーズン等の影響から好調であった事もあり、非製造全体で前年同月比から売上高で17ポイント、収益状況で7ポイント、景況感で4ポイントそれぞれ改善した。

原油価格の高騰、天候不順による農作物の仕入れ価格高騰を充分価格に転嫁できない報告や、11月にリニューアルオープンした大型商業施設の中小企業者に対する影響を注視していくとの報告があった。

景気回復感を感じさせる報道が続いているが、消費税の増税やオリンピック特需の減退、仮想通貨バブル等、景気の変動が予想される中、中小企業者が確実に事業を続けていくための経営力の強化への取り組みが必要である。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品 (水産物加工)	ギフトは低調。おせち料理向けは10月の前倒し需要が影響し全体の売上は前年同月比で94.8%。
食料品 (洋菓子製造)	自社製品の売上は前年並み。中華圏への輸出向けが好調で102.8%。OEMは焼き菓子が好調だが、冷凍ケーキが低迷し102.5%。全体の売上は前年同月比102.7%と前年並みを維持。
食料品 (パン・菓子製造業)	9月から年末にかけては繁忙期だが、人材確保が課題。外国人派遣労働者に頼っている。
食料品 (酒類製造業)	指数として景気はよくなっているが、中小企業や消費者への恩恵は感じられない。
繊維・同製品 (織物)	ネクタイは春物の初回分の発注が入った。インテリア、裏地も発注が出始めている。
木材・木製品製造	木材全体が値上げの傾向にあり、材料の仕入単価に値上げ要請の動きがある。組合員全体的に人材の確保が課題である。
窯業・土石 (砂利)	年度の繁忙期を向えるが、前年比では工事量は少なく、骨材需要量も低調。中部横断自動車道関連の工事はほぼ完成し、今後はリニア中央新幹線関連の工事に期待が高まる。
窯業・土石 (山碎石)	製品出荷量の減少に歯止めがかからず、依然として厳しい状況。リニア中央新幹線関連の工事や公共工事が始まるまでは、見通しは暗い。

一般機器	製造業全体として前年比では回復基調にあり、売上高、収益状況、景況感とも5%改善。
電気機器	ボーイング787機の機体製造関連の発注が増加した。しかし、毎年のようにコストダウンが要請され航空業界から離れる企業も増加している。

● 非製造業

卸売（紙製品）	中国への古紙類が輸入規制となり、年末から受入禁止となる。この影響の推測が困難。これにより、国内古紙が供給過剰となり、価格の暴落と共に製紙会社受け入れ激減につながる恐れを懸念している。
卸売（ジュエリー）	クリスマスや年末商戦向けの商品づくりが低迷している。しかし中国バイヤーの購入商品が高額商品から低額商品まで広がり、受注対応に迫られる企業が出ている。
小売（青果）	天候不順から商品が品薄、原価が高騰し売価に転嫁できず収益状況を圧迫した。年内はこの状況が続くと考えられる。
小売（その他）	前年同月の実績が低かったため売上高7ポイント、収益状況5ポイント改善した。後継者難による廃業が増加傾向にあり、組合員数減少が深刻化している。
小売（石油）	原油価格の上昇に伴い卸価格も上昇した。小売価格に十分な転嫁が行えず売上高は増加したが、収益状況は悪化した。
商店街	大型商業施設の増床リニューアルオープンによる中央商店街の顧客離れが懸念される。大型店との差別化を図る取り組みが必要であると考えている。消費税増税により消費の低迷が一層深刻化する恐れがあると感じている。
商店街	組合員を対象に、商店街活性化の為の勉強会及び、活性化につなげるためのアンケート調査を行った。今後の商店街の活性化・再開発に向けて組合の方向性の策定につなげて行く。
宿泊業	秋の観光シーズンに併せ、イベントが企画され客足は順調。郊外にオープンした大型商業施設へ商品搬入等の関係者の宿泊があり前年同月比から売上高、収益状況、景況感とも2～3ポイント改善した。 集客力のあるイベントの企画、企業誘致による期待が高まる。
美容業	長雨による来客数減少の反動により入店客数が2割程度増加し、売上高で20ポイント、収益状況で10ポイント改善した。年末に向かい次第に予約数が増加しているが、慢性的な人材不足が業界全体の課題である。
産業廃棄物処理	廃プラスチックの一部がリサイクルされることなく埋立処分されており、発生抑制、リサイクルの促進に業界をあげて取り組む必要があると考えている。
一般廃棄物処理	中国の廃棄物輸入規制により、特にペットボトルの行先をなくしている。大手企業による再生工場の建設計画の見通しがあり、今後は安定した処理フローが進むと期待されるが、自治体において発生するリサイクルペットボトルに対し処理料金の負担の増大が避けられないと考えている。
警備業	中部横断道、リニア中央新幹線トンネル及び台風等災害復旧の公共工事による警備員の派遣要請への対応に苦慮している。全業種の有効求人倍率に対し、建設労務者や警備員の求人倍率は高く、人材の確保が極めて困難な状況である。人材確保の課題対応のため、今後は警備員の処遇、職場環境の改善を行い、人材の定着に努めていく。
建設業（総合）	11月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は1%増加しているものの、請負金額は16%減少している。今年度の累計においても件数は4%、請負金額は11%減少している。

建設業（型枠）	年末に向け大変忙しい時期が続くが、来年は仕事量の減少が予想される。材料の高騰や、今年度からの社会保険加入の義務付けにより人件費が上昇しているため、仕事量の確保のために工事単価を下げない様、各社の企業努力が望まれる。
建設業（鉄構）	受注は首都圏などの県外物件に依存する傾向が続いている。11～12月にかけて鋼材価格が値上がり傾向にあり売上高5ポイント増加。
設備工事（管設備）	一般住宅工事量の減少が主な原因となり、売上高では28.6%減少。
運輸（タクシー）	観光シーズンだが、タクシー利用者は少ない。集客力のあるイベントの開催を期待。
運輸（バス）	燃料価格の急激な値上げが進み、収益状況が悪化している。バス料金に反映するため価格動向に注視していく必要性を感じている。ドライバー不が業界全体での課題。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2016/11	2017/10	2017/11	2016/11	2017/10	2017/11	2016/11	2017/10	2017/11
売上高	5	-5	20	0	-10	17	2	-8	18
収益状況	5	0	0	-10	-13	-3	-4	-8	-2
景況感	-10	10	10	-7	0	-3	-8	4	2

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

